

## 社会科

### における深い学びに到達した児童像

- ◇ 資料から問題解決に必要な情報を見極めて読み取り、読み取ったことに対する自分なりの考えを表現することができる。
- ◇ 自分と友達の考えの共通点や相違点に気が付き、お互いの良さを認め合いながら社会的事象に対する自分の考えを再構築することができる。
- ◇ 自身の経験・体験や既習事項をもとにしながら、社会的事象とどのように関わっていくか適切に判断し、表現している。
- ◇ 社会的事象を自分事としてとらえ、学習問題について必要感をもって主体的に調べている。
- ◇ 学んだことを日常生活や他教科の中で生かして学んでいる。

### 児童像の実現のために効果的だった手だて

#### 【学びの自律化・個別最適化】

- ◇ 課題（めあて）を確認する際に学習後の姿を段階ごとに提示

#### 【学びの自律化】

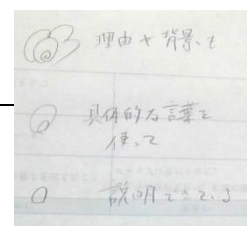
- ◇ 自分の視点や立場を明確にしたり、お互いの考えを積極的に比較・検討したりするための話合いの設定（順位付け等）。
- ◇ 毎時間の振り返りの視点を明確にし、単元の終末における活動（話合い等）にいかす。

#### 【個別最適化】

- ◇ クラウド上やノートの既習事項を根拠にした考えの構築・対話の充実
- ◇ 思考ツール（マトリックス表等）を活用した自分と友達の考えの比較

#### 【その他】

- ◇ パワーポイントやWebサイトのサービス（マップ・動画など）を利用した導入の工夫
- ◇ 身の回りの生活に隠れている社会的な意味に気付くことができるような、提示資料の工夫
- ◇ 考える視点・立場を明確にした話合い活動の設定
- ◇ 社会的事象同士やお互いの考えのつながりに気づくことができる構造的な板書
- ◇ 意図的なグループ編成による活動の深化・活性化



## 実践の成果(○)と課題(▲)

- 導入の資料を工夫することで、「もっと調べてみたい」「もっと考えてみたい」という児童の関心・意欲を高め、社会的事象を自分事として考えるきっかけを作ることができた。
- 学習の最後に到達してほしい姿を示すことで、めあてに沿ってワークシートを進めることができた。ワークシートやまとめに取り組む意欲につながった。
- 導入の問い方を工夫することで子どもの言葉を使ってめあてを立てることができ、その後の予想、調べ活動へとスムーズに繋がった。
- 資料を電子データ化し、クラウドを利用して共有することで、効率的に振り返りを行ったり、複数の資料を比較しながら考えたりする機会を増やすことができた。
- 思考ツール（バタフライチャートやマトリックス表）によって、社会的事象に対する既習事項や自分の意見・考えを再構築しながら明確にしてアウトプットし、自身の思考・判断を詳しく表現することができた。
- クラウド上のデータや既習事項をまとめたワークシートを利用した話し合い活動を習慣化することで、徐々にお互いの考えの共通点や相違点に目を向けて話し合いを進めることができるようになってきた。
- 課題解決のための話し合い活動の際にお互いの立場・視点を共有する時間を設定することで、だれと話をすれば自身の学びが深まるか、児童が学び方を選択し、活動する場面を設定することができた。
- 学習内容に対して、肯定的（メリット）な面だけではなく否定的（デメリット）な面も確認することで多角的に考えることができた。
- 単元のゴールとなる活動を明確化してから単元計画を構成することで、毎時間の振り返りに生かしたい視点を付け加えることができ、既習を活用した活発な話し合い活動につながった。
- ▲ 単元の学習問題を立てるための資料の選出や提示が難しく、単元の序盤から社会的事象にかかわる問題を自分事としてとらえさせるのが難しかった。  
⇒ 5W1H などを利用した「問題発見」のための視点の提示や、単元の導入に際した資料の工夫
- ▲ 話し合いの場面で何を話せばよいか戸惑っている児童がいた。  
⇒ 子どもたち同士で相違点や共通点に気付いたり、問い返しをしたりすることができるように対話的な学びに向けた話し合いの仕方を示し、繰り返す。
- ▲ 意見が偏った際などの協働やまとめの場面で深い学びへと繋げるための展開の仕方として、全体交流をどのように位置づけるか、どんな話し合いを展開するか、そもそも全体交流の時間は必要なのかなど全体交流のさせ方にも留意する必要がある。  
⇒ 意図的な指名で多面的・多角的な視点に気づかせたり、「自分と違う人」「なるほどと思った人」など、お互いの考えの共通点・相違点を意識して振り返らせたりするなど、発問の仕方を工夫する。